

育脳寺子屋通信

Vol.2

料金後納

〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20 育脳寺子屋MAC
TEL 075-871-0374 FAX 075-882-377
URL <http://www.mac-terakoya.com> e-mail 4411@mtf.biglobe.ne.jp

ゆうめーる

teaching → learning

これからは「学ぶ教育」

「自己実現している人」と、 「単に偏差値が高いだけの人」 の差は、一体どこからくるのか？



ご存じの通り、2020年からは大学入試が「暗記型」から「思考型」へと大きく変化します。しかし、なぜ今の時期に教育改革を行うのでしょうか？下村博文（前文部科学省大臣）は、以前あるインタビューで、

「今の小学生が社会に出る頃には、65%が今存在しない仕事に就くだろうという学者がいる。またあと20年程度すれば、現在の仕事の半数はロボットによって取って代わられる。日本がこのままの教育を続けていれば、将来的な失業者を大量生産することとなる。」

と仰っていました。

今の授業スタイルは明治の頃、プロイセン型の義務教育が日本に導入されました。プロイセン型の教育のゴールはシンプルで「最低限の知識を持った、従順な国民を作る」というものでした。

ひと昔前までは、ある程度の学歴があればある程度の就職先が決まっていた、入社したら年功序列で〇〇歳のころには年収がこれくらいで・・・と計算できた時代です。

この時代には、それまでの授業スタイルでも十分効果がありました。

それから時が経つこと約140年、当時とは相当時代が変わりましたが、依然として板書中心の「受け身」な授業が続けられています。これらのことを考え、国もやっと重い腰を動かしたのか

な？と感じます。

最近面白い本を入手、読了しました。その名も「一流の育て方」、非常に興味をそそられる題名です（笑）早速目次を見てみるとこのような内容です。

- ・ 子供は親のどんな教育方針に感謝している？
- ・ なぜ「頭がよくても成功しない」子供が多いのか？
- ・ なぜあの子は「自分で物事を決められる」のか？
- ・ 「主体性の有無」は出身大学と無関係
- ・ 重要な決定ほど、子供にさせる
- ・ 過保護と育児放棄のあいだのバランスが大切
- ・ 他人に迷惑をかけない人ではなく、

「役に立つ人」と目指させる

- ・ ときには自分以外全員が「間違っている」と教えよ
- ・ 子供を「天職」につけるにはどうしたらいいのか？
- ・ 視野を広げず「自主放任」してもダメ
- ・ 親のアドバイスは成人してから効いてくる
- ・ 半径 100「メートル」で育てない

－広い世界観を持たせるためには－

- ・ 自分の意思で挑戦させ、簡単にはやめさせない
- ・ 子供の「強い意志」がないところに、湯水のような教育費は無駄
- ・ 相手を理解し、心を通わせる能力を育む
- ・ 親の価値観の押しつけが、子供のコミュニケーション能力を低下させる
- ・ 怒るのではなく、気づかせよ
- ・ たいていの子供は放任しても強制しても勉強しない
- ・ 教育とは「勉強の楽しさ」「何が好きで、何が得意か」に気づかせること
- ・ なぜ子供に「勉強しなさい」と言ってはいけないのか
- ・ 「何が好きで、何が得意か」に気づかせることが最大の教育
- ・ 他人の子は「しつけ」ができていて初めてかわいい
- ・ なぜ「バーベキューパーティー」の振る舞いで将来を予測できるのか？
- ・ 子供は「優しさだけ」をもとめてはいない
- ・ 子供に「お金の話」はするべきか
- ・ 感謝力を磨け - 「小さなありがとう」を忘れない-
- ・ 子供は親の言うことは聞かないが、行動の真似はする。

目次だけでも、育脳寺子屋と同じ考え方の項目が多く「方向性は間違っていないな」と安心しました（笑）今回はこの中から抜粋して、話を掘り下げたいと思います。

（「一流の育て方」ダイヤモンド社 ￥1,600 税別 気になる方は是非ご一読を）



筆まめが文章力を鍛える

社会で活躍するために必要不可欠なもの、それは高度なコミュニケーション能力です。最近では高学歴でも、コミュニケーション能力が欠如している人が多いことが問題視されています。

子どものコミュニケーション能力を高める上で重要なことの一つに、「書く習慣」を身につけさせるということがあります。作者によると、「日記や読書感想文、手紙を書くように誘導してあげることは、特に理路整然と話す能力を獲得させる上でとても効果が高い」と述べられています。

ワシントン大学の心理学者ヴァージニア・バーニンガー教授の行った実験では、手書きのグループとキーボードを使うグループに分けて脳の働きなどを調べたところ、手書きのグループの方が脳神経の働きがより活発になり、より豊かな着想が生まれたと言います。

しかし、学校では2020年を目処に「1人1台タブレット」を目標にしています。それは今の教科書の代わりにタブレットを持たせ、その中に各教科の教科書をインストールするということなのです。(教科書のICT化)つまり、紙の教科書は無くなり、タブレットを見ながら授業を受けるようになるのです。

こうなるにはいろいろな議論があったのですが、メリットとしては

- 「テストも配信形式で、先生の採点の手間が省け、採点ミスも防げる」
- 「クラス平均などをすぐに割り出すことができる」
- 「生徒は重い教科書を持つ必要が無くなる」

などが挙げられるようです。(子供側ではなく、指導者側のメリットのような気が・・・)このICT化は果たしてうまくいくのでしょうか・・・？現段階では問題点として「現場の先生が電子機器に関しての知識が疎い為、うまく使いこなせないのでは？」という声もあります。

しかし、教科書が機械、採点なども機械となり、適切な範囲内であっても「子供たちのために叱ることも禁止」されるのなら、わざわざ教員採用試験をして先生を採用する意味もなくなってきますね。そもそも学校は知識だけを詰め込む場所なのではないでしょうか？そのうち、学校では教員の採用が無くなり、IT機器に強い人材の採用になったりして・・・。

話を戻しますが、高度なコミュニケーション能力を身につけるには知識を詰め込むための勉強でノートを書き続けのではなく、日記や感想文など「自分で考えながら書く」ことを幼少期から根気よく、コツコツ続けるしかないのです。

世の中は「英語、英語、英語」の流れですが、まずは日本語！日本語がいい加減なのに英語が上達するはずはありません。まずはこまめに書くことから始めて、それを続けましょう。

自分のことは自分で決めさせよう

～主体性の有無は出身大学と無関係～

著者の知り合いの、ある一部上場企業の元部長さんは

「多くの新入社員を教育してきたが、一を聞いて十を知る地頭のよさや、社会人としての常識の有無と、出身大学のランクは驚くほど関係が無い」

とよく口にしていたとのこと。これは本当にそうだと感じます。

ライブドア元代表取締役社長の堀江貴文さんは、ある番組で

「東大なんて簡単に入れますよ。だって、教科書に載っていることしか試験に出ないんですから」

と仰っていました。これに関しては東大に通ったことのない私は「その通りですよ！！」などと言えませんが、学生の間は授業で習った範囲からテストが作られ、想定されている回答を記入することができれば高得点を獲得し、「優等生」とされます。

しかし、社会に出てからは教科や試験範囲もなければ、用意されている答えもなく、営業成績を上げるための塾もありません。答えのない問題に直面し、その場で解決策を自ら考え行動し、問題を解決していかなければなりません。

堀江さんは恐らく元経営者の視点から、「学生と社会人は全然違うよ」と伝えたくて、そのような表現をされたのではないのでしょうか。

この点に関しては、育脳寺子屋MAC本部教室でも大いに勉強させられた事があります。(以前もNEWSに書きましたが・・・)

当時の塾長、猪飼先生の同級生が息子さん(40歳を超えた方)と一緒にMACへ来られました。

聞くと、就職が決まっていた学習塾が大幅なリストラをして入社できなくなったので、MACで働かせてもらえないかと。きっと戦力になるから是非とも！と仰っていました。

聞くと日本でも五本の指に入る大学の大学院を卒業されています。昔からの友人の頼みだし、塾としては申し分ない学歴なので、入社を認めました。

しかし、結果的には「高学歴だけど、仕事ができない」方でした。

時間にルーズ、脱いだ靴は揃えない、自分の座っていた椅子は引かず出したまま、借り物の本にマーカーで線を引く、お茶を出してもらっても礼も言わない etc・・・。

身の回りの事が「他社意識」を欠いたことばかりなので、当然生徒目線に立った指導もできるわけがありません。

塾長がそれら一つ一つを訂正するように言っても、今までのプライドからか素直に聞く様子もなく、「僕は大人なので、子供たちのように柔軟に対応できません」と言い出す始末・・・。結果1年足らずで退職されました。

この方は「学生時代は習ったことを覚えていればよかったから、いざ習っていない（経験していない）ことに直面すると、どう対処していいか分からない」と自分で仰っていました。結局、仕事ぶりは終始「受け身」で言われたことしかしない、主体的に動くことができない方という印象でした。

本来勉強は「社会に出てから活躍するため」にするべきものなのに、これでは何のために有名大学に通ったか分からないですね。

よくNEWSで「高学歴でも仕事ができない人が多い」という内容のことを書いているにもかかわらず、まんまと自分がそれを思い知らされる羽目になりました・・・。

本題に戻りますが、「主体性」はいかにして育むことができるのでしょうか？大きくは以下の三つに分けられます。

1. 自由に決めさせる

- ・ 子供に選択の自由を与え、主体的に決断させる。そうしなければ、自分にとって何が大切で何が好きなのかを見つけられない。結果的に、他人に決めてもらわなければ何も決められない「受け身」な人間になってしまう。
- ・ 親や先生が上から目標を押しつけても子供は本気で頑張らない。自分自身で目標を設定した時の頑張りはまさに別人である。
- ・ 自分の進路は自分で決めさせる。親や先生の意見で進路を決めた場合、後々関係に大きな禍根を残しかねない。

2. 助けすぎず、サポートする

- ・ 自主性は尊重すべきだが、アドバイスは十分に与える。「自主放任」と「単なる放置」は全くの別物なので、判断材料・能力の少ない子供には十分なアドバイスをあげるべき。当然、その

場合は偏った価値観や昔の情報ではなく、客観的・最新の情報である必要がある。

- ・ 選択肢を与え、最終判断は本人にさせる。押しつけや無理強いはしてはいけない。
- ・ 過保護に育てることは長期的に見て、子供の成長を著しく阻害する。「過保護」と「サポート」の間の絶妙なバランスをとるのが、親や指導者にとって最重要課題と言える。

3. 自分らしさを育む

- ・ 周りと合わせすぎず、「人と違っていい」と教えることで、周りに振り回されない自分を持った人間へと成長する。
- ・ よく「人に迷惑をかけるな」と言うが、あまりにそれを強調しすぎると「大志」を育てることができなくなる。最低限のマナーや礼儀を持つことは大切だが、それよりも「人の役に立て」と教えた方が、自己の形成に役立つ。
- ・ どんな小さいことでもいいので「自分是可以する！」という経験をさせ、自信を付けさせること。子供の頃からの成功体験が多いと「自己肯定感（＝ぼくはやったらできるんだ）」が高まり、どんな分野でも全般的に主体的・積極的に取り組むようになる。

未来をたくましく生きていける人間に

先述の通り、今の小学生の65%は今ない職業に就きます。また、今の仕事の半数はロボットに取って変わられるであろうと言われています。

そんな時代を生き抜くため、子供たちをどんな人間に育ててあげるべきなのか？これは指導者にとって永遠のテーマだと思います。

「目の前の成績よりも、もっと長い目で見た指導を」と考える自分と、「目の前の成績を上げてほしい」という保護者の要望の間で、葛藤されている先生も多いのではないのでしょうか？

灘高の伝説の教師と言われている橋本先生は、「すぐ役立つことは、すぐ役立たなくなる」とおっしゃいます。言い換えれば、将来ずっと役立つ力はすぐには身に付かないものなのです。

公教育では、ここに書いたような指導は難しいでしょう。

であれば、それができるのは私たち私教育者しかいません。私たちと保護者が一体となって将来活躍できる人作りをすることが、今の時代に一番必要なことではないのでしょうか。